

●28日、ボローニン大統領のブルガリア訪問

A．主な動き

1．沿ドニエストル問題

▼30日、リトカイ沿「ド」「外相」とカラシン露外務次官との会談(於:モスクワ)

・リトカイ沿「ド」「外相」とカラシン露外務次官は沿「ド」の政治・運輸問題及び沿「ド」企業の対外活動の状況につき意見交換を行い、露は沿「ド」とモルドバの対話再開につき支持を表明。

▼31日、沿ドニエストル議会は、モルドバとの連合の可能性にかかる1993年の決議を破棄することを決定。

・シェフチュク議長は、2006年9月17日の住民投票結果に則り、沿ドニエストルの独立とロシアとの段階的統合の方針を進める、対モルドバ関係は善隣外交に基づく旨述べた。

▼31日、ヴォローニン大統領とヤコボヴィツ・デ・セゲットEU特別代表との会談

・ヴォローニン大統領はモルドバでのミッションを終えるヤコボヴィツ・デ・セゲットEU特別代表との会談において、先月25日に沿「ド」和平に関する仲介者による「3+2」者協議において提案のされた2月15 - 16日の「5+2」者会合の再開について、モルドバは交渉再開を支持する旨表明した。

▼31日、シェフチュク「最高会議」議長によるインターネット記者会見

・シェフチュク「議長」は、コソボ問題の解決は沿「ド」和平問題に大きく影響を及ぼすものであり、沿「ド」はコソボよりも高度なステータスを得られるべきである旨発言した。また、昨年の大統領選挙の出馬を行わなかったのは、沿「ド」内の世論の分裂の可能性を避けるためである旨述べた。

2．経済

▼マクロ経済

・30日モルドバ中央銀行は2006年末段階の外貨準備高が775.3百万ドルであり、これは2005年12月末の同額(597.4百万ドル)を約29%上回るものであったと発表。準備高上昇はIMFからの新規融資及びモルドバ海外労働者からの送金が主な理由とされている。

・31日スターティ駐ウクライナ・モルドバ大使は、モルドバとしてウクライナ市場へのモルドバワインの輸出を倍増させたいとの意向を表明。2006年のモルドバ産ワインのウクライナへの輸出額は37百万ドル。今般ウクライナのワイン産業協会と「モルドバ・ヴィン」公社は協力協定に署名、同協定にはウクライナへのモルドバ産アルコール飲料販

売拡大に向けて各種の環境整備に努力が傾注されること等が記されている。

3．外政

▼26日、ヴォローニン大統領は外交団に対して新年の挨拶を実施。

・モルドバは困難な状況において、成功と社会的安定・独立の維持を同時に達成してきた。

・先般の支援国会合(於:ブラッセル)における各国の支援に感謝。

・欧州統合については、国内の法的・経済的近代化が第一の課題。ルーマニア・ブルガリアのEU加盟後によってモルドバに新たにコストが課せられたことについては、これをなくすべくEUに対して強く主張すべき。

・モルドバ・ウクライナ国境におけるモルドバ・ウクライナ及びEUによる共同努力を歓迎。沿ドニエストル問題の完全解決のための努力が必要。

▼28日、ヴォローニン大統領のブルガリア訪問

・バルヴァノフ大統領と会談、二国間関係、モルドバのEU加盟にかかる支援、両国民に対する査証問題等につき協議。

▼30日、ブセク南東欧安定化協定特別コーディネーターのモルドバ訪問

・ヴォローニン大統領、タルレフ首相、ストラタン副首相と会談。モルドバ側より、南東欧地域協力への積極的な参加はモルドバの主要外交政策の一つである旨強調。

▼1日、バセスク・ルーマニア大統領は欧州議会における演説でモルドバに言及

・モルドバは1940年に自らの意思でなく欧州を離れたのであり、ルーマニア・モルドバ国民は共に同じ歴史、言語、文化、伝統を持つ、モルドバは我々の家族であり、彼らが欧州に戻るために努力するのはルーマニアにとって道徳的・政治的義務である、モルドバのEU加盟の可能性は、西バルカン諸国と同様に与えられるべきであると述べた。

5．防衛

▼イラク派遣部隊帰還

・27日、イラク戦後復興支援活動に参加していた第4次派遣隊11名が、6ヶ月の任務を終え帰還。プレシユカ国防相は、このPKOへの参加により、モルドバが信頼できるプロフェッショナルなパートナーであることを改めて国際社会に示すことができたことと述べるとともに、近い将来、次の部隊を派遣する旨発言した。

B . その他の動き

1 / 30 (火)

する安全保障会議の創設を決定。

・スミルノフ沿ドニエストル「大統領」は、同「大統領」をヘッドと

(了)